

入管のレイシズムに対する Z 世代の取り組み—仮放免者との連帯—

座安 黎香

開催日：2022年7月10日

登壇者：デニス（仮放免当事者）

安田浩一（ジャーナリスト）

座安黎香（Moving Beyond Hate メンバー、上智大学総合グローバル学部
総合グローバル学科4年）

トミー長谷川（Moving Beyond Hate 設立者、東京大学法学部3類4年）

背景

このイベントを開催するに至った背景は、まず私自身と元被收容者であるデニスさんとの出会いにある。大学に入り、入管問題に関心を持った私は、デニスさんを原告とした入管関連の裁判闘争に参加していた。デニスさんにつながった以上、「なにか一緒にやりたい」と考えていたため、2021年の入管收容所でのウィッシュマさん死亡事件やウクライナ難民受け入れ、入管法再提出をきっかけに日本の入管行政が注目されるようになってきた中で、当事者の訴え、学生の取り組み、当事者と学生の連帯を象徴するようなイベントを開催したいと思い、企画に至った。

イベント概要

当日は入管收容の実態、入管にまつわる日本のレイシズム、当事者と学生の取り組みについて、難民申請当事者のデニスさん、長年日本の差別について取材をしてきたフリージャーナリストの安田浩一さん、MBH（Moving Beyond Hate）メンバーであり、裁判傍聴に参加してきた座安が講演をした。その後、MBH代表のトミー・長谷川さんを司会とし、上記3人をゲストに、質疑応答を行った。最後にMBHの団体紹介をし、終了後に参加者と個別に交流する時間も少しあり、無事終えることができた。対面、オンライン合わせて75名の方にご参加いただいた。

デニスさん講演

デニスさんは「日本の入管收容の実態と当事者の取り組み」をテーマに、来日の経緯、入管收容中に受けた暴行や仮放免後の生活、入管問題への取り組みについて講演して下さった。デニスさんは、イベント当日が参院選であったことから「入管政策を悪化させる現政権に投票しないで」というメッセージを伝え、学生ができることとして「入管の問題を家族や友達に伝える」「デニスさんが原告として闘っている裁判に参加する」「一緒になって声をあげる」ことを訴えかけた。

安田浩一さん講演

安田さんには「日本社会のレイシズムと入管」をテーマに、2022年秋以降に予定されてい

る入管法改正案（入管の権限をより強くする改悪案）再提出の動き、それに関連して技能実習制度の現状や入管の歴史について講演していただいた。講演では、日本にいわゆる外国人の人権保障を目的とした政策はなく、政府も入管も「外国人を監視、管理し、追い出す」対象としてしか見ていない、そのようにして入管が機能してきたことを強調していた。

入管法改正案が、「奴隷制度」と批判される技能実習制度の廃止と引き換えに提出されようとしている現状に今後も注視が必要であることが訴えかけられた。同時に、今後、外国人とともに暮らす社会を築いていくために、私たちが入管問題を解決し、外国人の人権を保障する政策をどのように築いていけるのかが参加者に問いかけられた。ともに考えていくことが提案され、講演が終了した。

Reika 講演

「裁判傍聴から見えてきたこと、学生にできること」をテーマに、これまで参加してきたデニスさんの2つの裁判「クルド難民収容者暴行被害国賠訴訟」「日本の入管収容は国際人権法違反訴訟」の概要、裁判から見えてきたこと、学生にできることについて報告した。入管の長年にわたる外国人の人権を軽視する体質に対しては、裁判だけでなく、皆で声を上げていく必要があることを訴え、最後に海外の対入管運動の紹介、学生にできること、当事者と連帯し、当事者が闘うイメージを作っていくことが重要であると訴えかけた。

質疑応答

質疑応答では、入管についての報道で工夫している点、SNSとヘイトスピーチに関する質問や、デニスさんが声をあげたことでどう変わったか、若い人に運動を広めるために心がけていること、若者による社会運動とウェルビーイングについてなど、さまざまな質問があった。SNSでのヘイトスピーチにどう歯止めをかけられるか、当事者と今後どのように入管問題に取り組んでいけるのか、若者がどのように日本社会で声をあげ、広めていけるのかについて議論した。

まとめ

今回のイベントを通して、当事者であるデニスさんの生の声、現場で長く取材をしてきた安田さんの強い訴え、そして入管のレイシズムに対する学生の取り組みを伝えられたことで、当事者と私たち若い世代が連帯して入管問題に取り組んでいけることを示すことができた。

実際に「当事者のデニスさんの声、現場で取り組んでいる人の声を聞いて、自分も取り組みたいと思った」などの感想があり、その後MBHにも新しく5人のメンバーが加わるなど、ともに取り組むメンバーとの出会いとしてもよい機会となった。また、私自身今回のイベントで発表者となったことで、これまでの自らの取り組みを振り返り、改めて今後何をすべきかを考えることができ、自分にとっても重要な機会となった。

座安 黎香（ざやす れいか）（上智大学総合グローバル学部学生）